

## 発表要旨・討論の概要

である。

426, ○梁井迪子・関計夫・篠原忍「集団力学・カウンセリング研修会の評価—グループを中心として—」について話し合われた諸点を列記すれば, ①この研究に用いた主我性—社会性テストの各項目間の相関に関する問題統計において算出した中央値の利点と限界の問題。②このような研究を行なうことの必要性和、その表現の自由性を確保する時期の問題。③日本人と社会的感受性の問題, アメリカで効果的であるTグループの方法が, 日本人のパーソナリティを考えた場合, その効果はどうかに関する問題。④最後にその効果を数的に表現する可能性とその方法に関する問題等であつた。

427, 小林さえ「前青年期のギャングにおけるリーダーシップの一考察」に関する討議内容は次の通りである。①特異行動をするようなギャングは独裁集団に多く集団凝集性の度が高いが, それは掟やリンチ等の圧力下に生ずることが多い。現象型では独裁集団の凝集性と民主集団のそれとは似ているが発生型では両者は違つたものである。②日本では一般に前青年期ギャングの特異行動は

少ない。子供文化の発達と家庭の甘やかし教育が, 幼時の慾求不満を少なくしていることがその原因の1つと推定される。この事情は国の経済事情とは一応関係はない。日本のギャングを, 受験準備, 家族制度, 空想力の貧弱さ, 子供中心主義, 非冒険的性格等とあわせ考えてみることは将来に残されている問題である。

以上, 思ひのほか発言は多く, それも特定の発表にのみ限られることなしに全般にわたつて話し合いが行なわれたのであるが, この間を通じてしばしば論議の対象となつたのは, 集団の凝集性の問題であつた。しかし同時に凝集度が高いとはどのような事態を意味するかなど, 論者によつてその用いる概念が必ずしも同様の内容でない点も指摘された。それだけに, 例えばソシオメトリーで測定したものが凝集性の中のどの次元のものかを明確にした後にこの語を使用することが望ましいなど, 概念の適用と記述の上での配慮についても積極的に話し合われたのであるが, こうしたことは相互理解のためにも一層必要であろう。

(塚田毅・伊藤惣右衛門)

## 12. 社会・文化 (1.)

## 501 道元禅師の住持された

## 永平寺禅林の心理学的研究 (その1)

中 嶋 仁 道(兵庫県立神戸聾学校)

今日の心理学では, 過去の人間行動を究明するためのオリジナルな方法なり手だては未だ確立されておらず, むしろ, これらを民俗学や歴史学の分野に委ねているようにさえ思われる。

禅林は, 生活態度を同じくする人びとの社会的行動の場であり, その社会はそれ自体教育的環境を構成しているものであるが, 特に初期永平寺禅林を資料としてその生活空間の構造を究明しようとするのがねらいである。およそ700年以前の社会集団の行動を, はたして心理学的に究明できるかどうかは疑問ではあるが, この研究への取り組みは, 先ず現在残っている文献を広く検討し, 中世という時代相なり文化の基調を究明して, 可能なかぎり当時を再現させることに努めねばなるまい。さて, 道元禅師の禅林は「身心一如」説で一貫し, 問題として提起されるのは教条的に固定された人間性ではなくて生きた人間性と実践行動であり, 自己と環境との関係を利那的・断続的状态においてとらえようとしないので, 心理学の領域から逸脱することも少いであろう。

## 502 GSR による TV 視聴過程の分析

○江見佳俊・塩田芳久・三輪弘道

(名古屋大学)

ある民放のテレビ番組をとりあげ, 各場面が視聴者によつてどのような情緒的態度で視聴されているか, 特に広告効果測定の観点から, GSR によつて検討した。

その結果, GSR によつて測定された印象性・アピールの量的度合と当該場面内容の把持率との間に有意な関係が示され, GSR が広告技術の方法論的裏づけとなるデーターや広告効果の測定資料を得るための1つのテクニックとして利用できる可能性を認めることができた。しかし, さらに印象性・アピールの質的側面をも検討するためには, 質問紙法・面接法などとバッテリーにして使用することが一層効果的であることがわかつた。

## 503 テレビ・マンガとこども

○星 美 智 子(愛育研究所)

中 川 作 一(法政大学)

目的: テレビ・マンガにたいする子どもの臨場反応を分析すること。